

科目コード	E1002	科目名	ヒロシマのこころ				
履修区分	必修	開講期	1年前期	授業回数	15回	単位数	2単位
担当者	古井戸祐樹/堀井俊宏/二宮孝司/佛園弘修						
授業の概要	平和とは何か、現在の国際社会において平和の大切さ、難しさを学び、一人ひとりが何をしなければならないかを考え、平和な心と豊かな人間性の大切さを学修する。真の恒久平和は、武力や暴力ではなく平和的手段によって、日常生活での地道な実践の積み重ねから実現できるもの。「平和をつくる」ことの意義と具体的方法論について核被爆の実相と「ヒロシマのこころ」に照らしながら考察する。						
DPとの関連	平和を希求し、その教育に努め、幸せな人生を創造しようとする力を身につける						
	人間愛のもと、ケアすることの意義を教育・保育の専門性において学び、専門的な知識・技術との統合を図る力を身につける						
	修得した専門的な知識・技術を活用し、教育者・保育者として実践する力を身につける						
	教育・保育者として、子どもの育ちや学びに関わる問題について時代の変化を見通して研究し、新たな価値の創造を図る力を身につける						
	社会との連携を図り、人々の教育的・保育的ニーズや社会的ニーズに応えることができる力						
DP：ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）＝卒業までに身に付けるべき資質・能力							
到達目標	「原爆被災の実相」（物理・医学・人道的）の正確な理解 「ヒロシマのこころ」（被爆者の心情・核廃絶への決意）の継承と実践 「平和を創る」という意識の向上と日常生活での実践、並びに「建学の精神」の体現						
履修上の注意事項	・授業の妨げになるので私語、スマホ使用、途中退席は禁止。配布のレジュメと資料を中心に講義を進める。 ・ICTを活用しながら、主体的で対話的な学修を進めてください。						
授業計画	回数	講義内容【担当教員】				事前・事後学修	
	1	オリエンテーション【古井戸・二宮・堀井・佛園】				自己紹介の準備、テキストと授業内ワークの予習と復習	
	2	「建学の精神」の体現（被爆体験の証言と「被爆実相」・「復興へ」【佛園】				テキストと授業内ワークの予習と復習	
	3	被爆体験証言の教材化/見学計画（目標・課題）【古井戸・二宮・堀井・佛園】				テキストと授業内ワークの予習と復習	
	4	平和教育実践の現状（似島平和教育教材）見学計画（課題作り）【古井戸・二宮・堀井・佛園】				テキストと授業内ワークの予習と復習	
	5	平和教育実践の現状（平和教育プログラム）見学計画（引率計画）【古井戸・二宮・堀井・佛園】				テキストと授業内ワークの予習と復習	
	6	これからの平和教育実践（現地での教材研究）見学計画（教材作り）【古井戸・二宮・堀井・佛園】				テキストと授業内ワークの予習と復習	
	7	「建学の精神」の体現（現地での平和遺跡への思い）【佛園】				フィールドワークの振り返りと次時の予習	
	8	フィールドワーク（平和記念資料館の感受と対話）【古井戸・二宮・堀井・佛園】				フィールドワークの振り返りと次時の予習	
	9	フィールドワーク（原爆供養塔・碑・被爆樹木の感受と対話）【古井戸・二宮・堀井・佛園】				フィールドワークの振り返りと次時の予習	
	10	フィールドワーク（国立広島原爆死没者追悼平和祈念館の感受・対話）【古井戸・二宮・堀井・佛園】				フィールドワークの振り返りと次時の予習	
	11	フィールドワーク（被爆体験証言を継承し教師としての伝承の考察）【古井戸・二宮・堀井・佛園】				フィールドワークの振り返りと次時の予習	
	12	フィールドワークのまとめ【古井戸・二宮・堀井・佛園】				各グループでプレゼン発表の準備	
	13	フィールドワークのまとめ【古井戸・二宮・堀井・佛園】				各グループでプレゼン発表の準備	
	14	プレゼン発表（各グループで発表し、他のグループ内容もまとめる。）【古井戸・二宮・堀井・佛園】					
15	プレゼン発表（各グループで発表し、他のグループ内容もまとめる。）【古井戸・二宮・堀井・佛園】				講義の振り返りと全体のまとめ		
成績評価方法	授業内で記入するコメントシート60%。討論や観察の内容と主体的なかわり40%。ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。						
教科書	書名・著者（出版社）					ISBNコード	
	使用しない						
参考書	広島市平和教育プログラム/へいわノート（広島市教育委員会/株式会社中本店）					広X3 - 2012	
教員からのメッセージ	授業での課題等はこちらより、平和問題について日常生活でも疑問を感じたら、そのままにはせず、どのように考えるべきかを探究していきましょう。そのうえで、他者と議論をすることで自分の考えをさらに深めましょう。						
教員との連絡方法	直接研究室を訪ねるか、担当教員もしくは事務を通してメール等で連絡してください。						
実務経験のある教員	公立小学校の教諭、教頭、校長として勤務。 教育委員会の指導主事として勤務。 上記勤務の過程で平和教育実践プログラムの施策立案を担った。						